

南風悪天候時の羽田空港への着陸便（22ILSルート）の騒音軽減策を国に要請  
するよう求める陳情

（生活振興環境委員会付託）

受理番号 第96号

受理年月日 令和8年3月10日

付託年月日 令和8年3月25日

陳情者 . . . . .  
. . . . .

陳情原文 南風悪天候時、江戸川区を縦断する22ILSルート運用は、6時から23時と早朝から夜間遅くに及ぶ長時間であり、かつ騒音値が大きく、江戸川区民の大きな負担となっています。23時～翌朝6時の羽田空港は、天候や風向きに関わらず陸域への騒音影響に配慮した海上ルートです。便数の少ない6時台や21時以降は22ILSの運用外とすることが可能ではないでしょうか。

国土交通省は、2020年3月の羽田新ルート運用以降、関係自治体や住民の要望を受けて、同年6月から「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」（固定化回避検討会）を開催しています。昨年12月23日の第7回検討会では、海上ルートの実現に向けた調査研究結果や今後の方向性が示されました。

ここで示されたRNP-AR方式は、市街地上空を通過せず東京湾上を曲線で着陸する海上ルートで、実現には課題が多く時間がかかるとされていますが、その検討の加速を、複数の自治体が要望しています。

江戸川区の航空機騒音をどのように改善するか考えた場合、RNP-AR方式検討の場に、悪天候時も加えてもらうことが必要だと考えます。直線が必要とされてきたILS（計器着陸装置）の曲線化は、航空管制等の技術の進歩により十分可能であり、騒音負担軽減になるからです。

長年騒音負担を負ってきた江戸川区民は荒川ルート運用により更なる「騒音負担増」に悩まされています。つきましては、騒音の低減に向けての取組みを積極的に推進していただきたく、下記のとおり要望いたします。

記

- 1 22ILSルートの運用時間の短縮（特に早朝・夜間）を国に求めてください。
- 2 22ILSルートを海上ルートに変更する検討を国に求めてください。